

子どもローカルニュース

全国津々浦々

東京都練馬区

円明院

被災地思い 秋のコンサート



佐藤さんのピアノに合わせ、会場の人々と一しょに「紅葉」を合唱する(左から)清水さん、黒沼さん、鈴木さん

位)、東京芸大3年の鈴木美郷さん(第66回高校の部声楽1位)。演奏のあと、会場にいた全員で「紅葉」を歌いました。バツハの曲を演奏したフルートの清水さんは「本堂の響きが良かった。音楽は宗教を超えらるんだと思いました」。演奏を聴いた練馬区開進小5年、田崎爽一朗君は「佐藤さんの演奏がすごかった」、妹の同小2

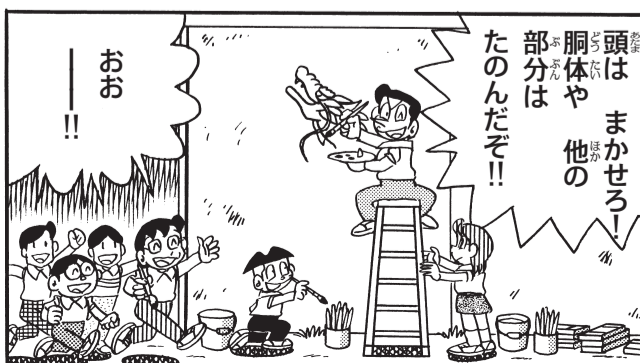
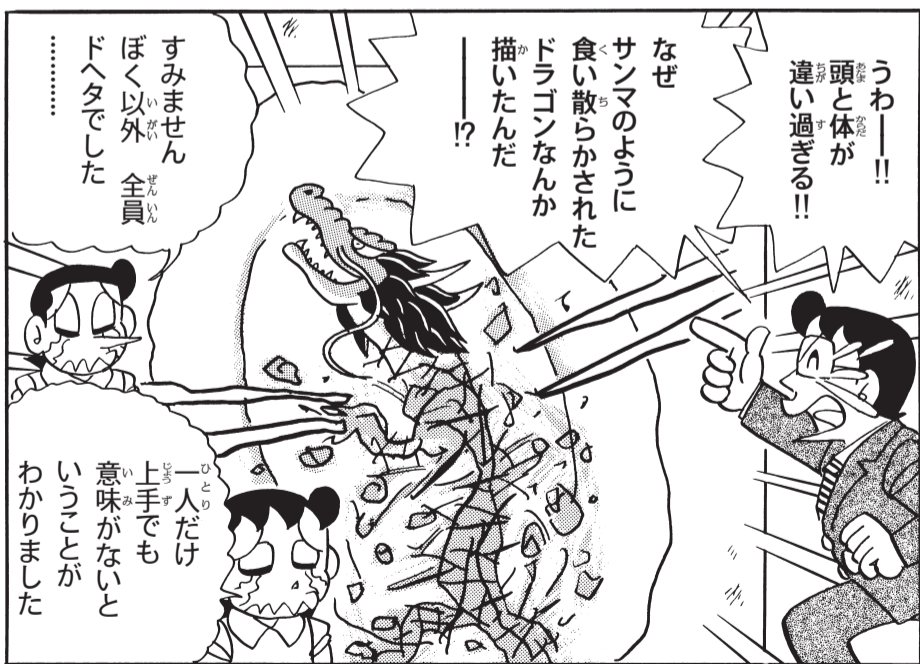
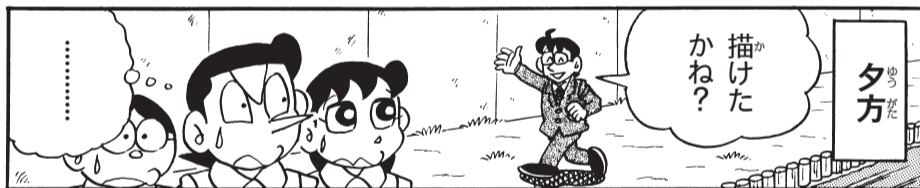
ピアニストの佐藤勝重さんや、全日本学生音楽コンクール入賞者らが演奏する「円明院秋のコンサート」が11月14日、東京都練馬区の円明院(陶山義憲住職)の本堂で開かれました。東日本大震災で被災した岩手、宮城、福島県内の小学校10校に毎日小学生新聞を贈る運動

を続けている「企画室 筆・U・S・A(榎戸敬子代表)が企画、ホテル日航プリンス京都の協賛で行っています。入場料や出演者らの寄付が運動にあてられます。第一部は、震災の犠牲者のために全員でお経を唱えてから始まりました。出演したのは佐藤さんのほか、東京音大付属高2年の清水伶さん(第68回高校の部フルート1位)、東京芸大付属音楽高2年の黒沼香恋さん(第68回高校の部ピアノ1

年あゆみさんは「あんなふうにはピアノを弾いてみたい」と話していました。第二部では、萩尾信也・毎日新聞専門編集委員が、被災地で聞き取った夜空について語りました。岩手県で見た星空は、停電で地上の明かりが消え、満天の星が美しくかったそうです。ある女子高生は大きな緑色の流れ星を、小学生の男子は、大きな円い月を見たことを覚えていました。我が子を失った男性は、遺体を安置所で見つけた夜、避難所へ戻る途中で見た月が涙でゆがんでいたことを話してくれたと言います。

夜空の話をする萩尾・専門編集委員

【太田保馬、写真】



論語くん

監修 まんが 三谷幸広 竹内貴久雄

424

先進第十一より
子貢問いて曰く。師と商と、孰れか賢れる。子曰く。師や過ぎたり、商や及ばず。曰く。然らば則ち、師愈れるか。子曰く。過ぎたるは、猶及ばざるがごとし。

意味

▼子貢さんが先生に質問。「子張さんと子夏さん、どちらが優れているのでしょうか」。先生の答え。「子張は少し先へ行き過ぎているし、子夏は少々遅れている。それを聞いて子貢さんが言ったこと。『過ぎる、子張さんのほうが優れていること、遅い、子夏さんか。先生は答えました。』それは違う。行き過ぎているのは、遅れていると同じくらい、だめなのだ。」